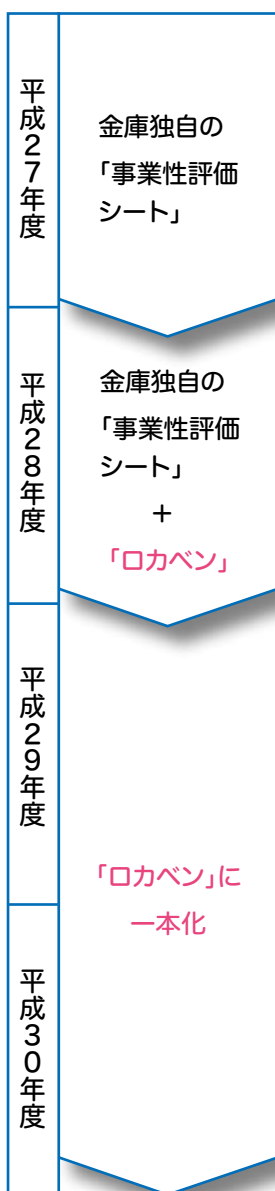


●ロカベン一本で事業性評価、ものづくり補助金申請支援

- 名称：京都北都信用金庫
- 愛称：ほくとしんきん
- 代表者：理事長 森屋 松吉
- 本店所在地：京都府宮津市字鶴賀2054番地の1
- 創立：明治34年5月17日
- 出資金：10,408百万円
- 役員員数：710名
- 預金：7,547億円
- 貸出金：3,520億円
- 事業内容：預金業務 融資業務 為替業務 その他代理業務
- 営業区域：京都府 福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・亀岡市
京丹後市・南丹市・京都市右京区(旧北桑田郡京北町に限る)
船井郡・与謝郡
福井県 小浜市・大飯郡・三方上中郡
兵庫県 豊岡市・篠山市・丹波市・朝来市

導入経緯

ロカベン導入前から導入に至るまで



課題

- ・ 金庫独自の「事業性評価シート」に、業務フローの欄がなく、全体像が掴みにくい。
- ・ お客さまとの対話が十分でない。深掘りができていない。
- ・ お客さまとの取引が長い中で、改めてお客さまに事業のことについて「聞きにくい」

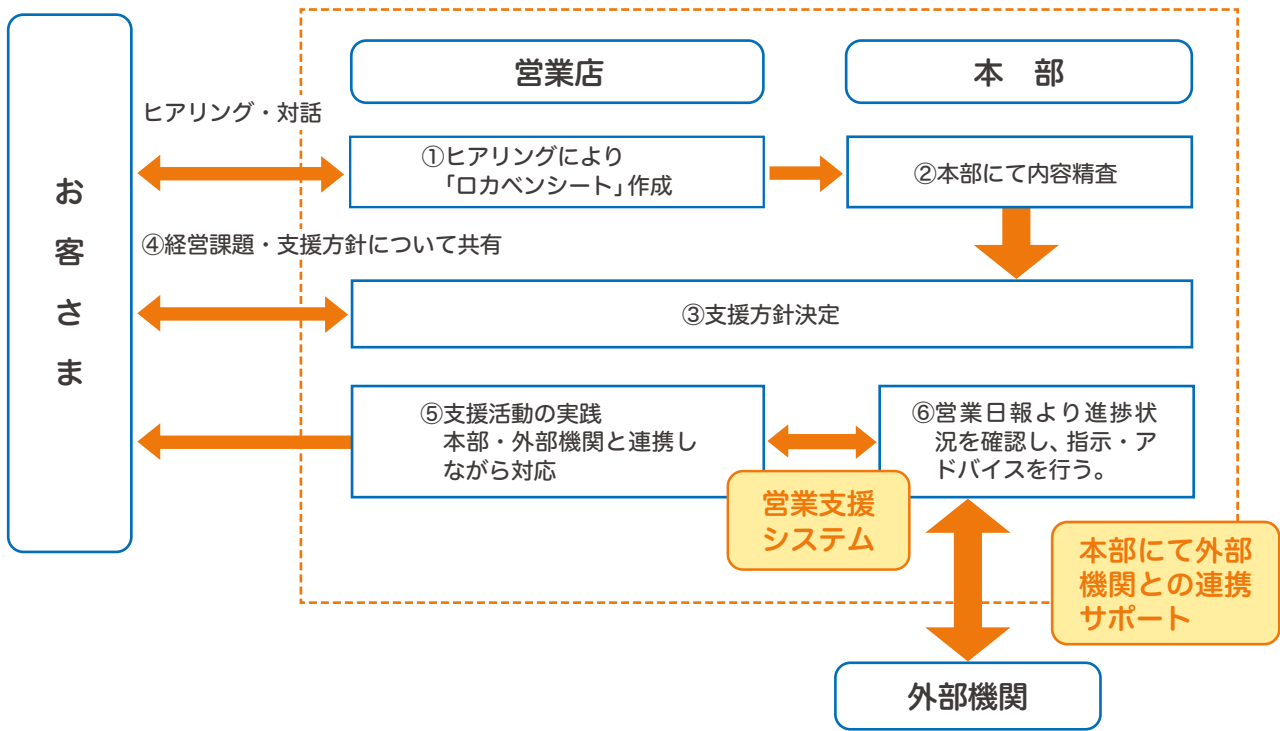
課題

- ・ ロカベンを導入したことで内容は充実するも、業務フローの把握が十分でない。
- ・ ロカベンから事業性評価シートの転記に時間を要し、事務負担が増加。
- ・ ロカベンによるお客さまとの対話・コンセンサスが十分でない。

一本化した理由

- ・ 平成29年3月のロカベンの改訂により、「業務フロー」と「商流」が区分され、ビジネスモデルを俯瞰して把握できるようになったこと。（当金庫独自シートより効果的である）
- ・ ロカベン作成について、お客さまと協働して作成することで、取引先との課題共有を深め、課題解決に向けた支援につながる。

取り組み体制の構築



活用の効果・課題

項目	効果	課題
事業性理解	若手職員が、お客様の業務フロー等を理解する機会となる。また、中堅・支店長クラスの職員においても、改めてお客様の事業を理解する機会となる。	本部にて精査する段階で、業種の特性を理解する力が不足していることが課題となる。 →その後の「業種別研修」の取組みにつながる。
経営課題の共有	ロカベンを活用したことで、お客さまとの課題共有が進む。特に、潜在的な課題である「事業承継」の課題を共有できた。	課題の解決に時間を要するものが大半であり、長期継続的に支援する仕組みが必要。
融資取組み	業務フロー及び経営課題解決の中で、融資取組みの視点(可能性)を意識することで、事業性評価のための評価にならないように意識した。	ロカベン(事業性評価)実施先は、定性面の把握強化に繋がっているものの、資金余力がある先等については資金需要がなく、融資に直結しない。

ものづくり補助金の取組み

平成28年より「ものづくり補助金申請」支援に取り組む。

・平成28年 16件申請 9件採択 ・平成29年 25件申請16件採択 ・平成30年 38件申請24件採択

「ものづくり補助金」申請支援は、当金庫職員が伴走支援することとしており、補助金申請のベースとなる「事業性理解」「経営課題」等を把握する上で、ロカベンを活用していることが、採択数の向上につながる。

金融機関の声

オリジナルの事業性評価シートを導入したものの、結局は業務フローの把握が曖昧な状況が大きな課題として残っていた。ロカベンと併用するなどの試行錯誤を繰り返していた折、2017年3月にロカベンが改定され、ビジネスモデルを俯瞰できるなど、求めていたイメージに近いシートとなった。これにより全面的にロカベンへ移行する決断ができ、事業性評価に対する考え方が大きく進んだ。

ロカベンに全面的に移行してからまだ2年弱であり、1社作成するのに多くの時間を要している、また1回で終わらせずに継続的に実施していくためにはどうしていくか、などの課題はあるものの、今後もロカベンを重要な対話ツールとして、十二分に活用していきたいと考えている。